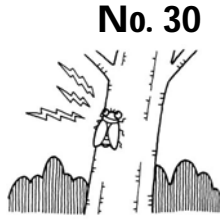
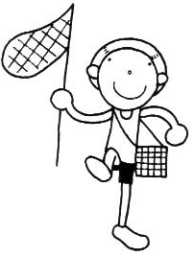


下大和田谷津田だより



2004年8月号

第54回「下大和田谷津田の 観察会とゴミ拾い」報告

7月4日 晴れ

今回から畦道への負担を考慮して谷津手前斜面林下の道路、広場、借りている田んぼ、山林内とコースを縮小して実施しました。

今回は樹液に集まる虫をテーマに、まずは樹液を出す木・・・雑木林の代表的な木のクヌギ、コナラ、・・・を覚えて樹液を出している木を探しながらみてまわりました。樹液の出ているところは少なかったのですがスズメバチ、カナブン、コメツキムシの仲間、などがいました。カミキリムシによってボロボロになったクワの木も見ましたがカミキリムシは見られませんでした。田圃脇のヤナギの若木の群落も樹液を出して、醜臭臭が香るほどでしたがスズメバチ、カナブンがいたくらいでカブトムシやクワガタムシはいませんでした。少し早かったようです。

観察終了後は田んぼの作業、斜面林の笹刈りをしました。古代米の田圃の草取りをした千葉大学の若い皆さんはクサガメを3匹も見つけました。いつも見つかるのは古代米の田んぼです。無農薬、無肥料で生きものにやさしい田んぼ作りの成果ではないかとひそかに喜んでいきます。この田にはカメの餌になるものが多いとか、カメにとって住み心地が良い環境になっているのでしょうか。大事に見守ってください。

(参加者：大人11人 子ども3人 報告：網代春男)

第37回谷津田プレート・プロジェクト(YPP)

谷津田の生きものとあそぼう！&田の草取り

7月17日 晴れ

平年より1週間ほど早く梅雨明けし、すっかり本格的な夏の天気。まずは畦の草取りや田んぼの中の草取りをしました。今までになくコナギがびっしりと田んぼの中に生えていて稲への影響が心配です。でも雑草もよく見ると、アゼナがちいさなかわいらしい花をつけていたり、キアゲハがセリに止まって卵を産んでいたり、いろいろな発見があります。草取りのほかに、田植えの残っていたところに紫米を植え、また生きもの池づくりの作業もしました。暑さの中、昼まで大汗を流して、みんな顔が真っ赤。昼食は涼しい林の中で食べました。今年から下草や藪を刈った林の中はとても快適。時折吹きそよぐ風がとても心地よく、汗が退いていきます。「木のテーブルがあったらいいね～」と夢がふくらみます。

昼過ぎからカエルを探して、ジャンプ大会をしました。この季節になると今年生まれのアカガエルの多くはもう林へ移動してしまっているのか、数が少なくなっています。でも、土水路の周りで大きく育ったアカガエルを見つけることができました。なかなかジャンプしてくれないカエルを子どもたちが一生懸命応援。でも思い通りにはジャンプしてくれません。その分、自分がかんばるぞ、と子どもたちも元気に何度もジャンプしていました。

3連休の初日のせいか、参加者が少なかったのですが、ザリガニや魚探りをしたり、バッタを探したり、のんびりと真夏の谷津田を楽しむことができました。

(参加者：大人10人・小学生4人・乳幼児1人、報告：高山邦明)

下大和田季節のたより

7月3日 ニンゲミヤビグサが早くも鳴き始め、一足早く本格的な夏が来たよう。ウバトコブの大群が今年もやって来て、谷津田の上を乱舞していた。(高山)

7月10日 ミツカシや双トラノオの花が咲きはじめる。ゾウキの親子が林から出て谷津田の畦で餌を探していた。(高山)

7月17日 水路のあちこちでタイリカワラコが採取される。初めての記録で、放流が危惧される。(高山)

7月23日 コシカが例年よりも早く出穂、開花。(田中)

早く梅雨が明けたと思ったら記録的な暑さの連続です。その暑さのおかげで、今年は全国的に米の豊作が予想されています。冷夏の昨年と比べるとうれしいことですが、一方で米価の下落が懸念されています。自然を相手にする仕事の難しさですね。

高山邦明